

## 平成 26 年度 大学評価アンケートの結果について

**【回収率】**

平成 26 年度実施の大学評価アンケート回収率は 81.3%と過去 5 年間の平均値 75.6%を大きく上回った。工学部では、特に 1～3 年生の回収率が高く 83.3%であったが、学科別に見ると改善が必要な学科も見受けられる。一方、LD 学部の回収率は 76.3%であり、2 年生と 4 年生の回収率に若干の改善が必要である。

この大学評価アンケートの実施目的は、全学生の声を広く集め、今後の教育や環境の改善につなげていくことにあることから、各学科において回収率の低い学年等に対する改善方策を検討する必要があるのではないかと。

**【設問 1：大学生生活満足度】**

「まあまあ満足」以上は 61.9%と過去 5 年間の平均値 58.3%を上回った。一方で「大いに不満」は 3.3%と例年同様であった。「まあまあ満足」以上の数値を学年別に見た場合、1 年生 62%、2 年生 52.1%、3 年生 64.3%、4 年生 70.5%と 2 年生が特に低い。学科・学年別に見ると経営コミュニケーション学科の 1 年生が 28.9%と極めて低く、2 年生は 8 学科中 4 学科が 50%に満たない低評価であった。「やや不満」以下の数値を学年別に見ると、1 年生 11%、2 年生 15%、3 年生 7%、4 年生 7%である。例年の事ではあるが、3・4 年に比べ 1・2 年生の満足度が低い。満足度が高い 3・4 年生の学科・学年別では、都市マネジメント学科 4 年生が「まあまあ満足」以上が 92.5%を占めるという高評価であった。3・4 年生に対しては卒業研修や就職支援など、重点的なサポート・支援体制が構築されているため、評価に反映されたと言えよう。今回のアンケート結果を踏まえ、大学全体の満足度を向上させるには 1・2 年生の満足度を向上させることが課題である。満足度の向上は休学、退学者の抑制にもつながるため、各学科等において、低学年次の満足度向上施策を検討する必要があるのではないかと。

**【設問 2・3：授業等への出席度とその理由】**

「ほぼ全部出席」の割合が 53.5%であり、過去 5 年間で最高値となった。学年別に見ると 1 年生が 58.8%、2 年生 46.4%、3 年生 53.0%、4 年生 55.5%であり、2 年生は満足度と同様低い結果となった。また、出席状況が「半々ぐらい」以下で回答した学生数を学年別に見ると、1 年生 54 名、2 年生 82 名、3 年生 43 名、4 年生 54 名、合計 233 名と多い。この中には、留年した 2・3 年生も含まれていると推測できることから、授業出席率の低い学生の早期発見、適切な支援・指導が留年、休学、退学者防止につながると言えよう。また、欠席のほうが多い学生（59 名）の欠席理由については、「何もしたくない」（16 名）、次いで「その他」（15 名）であった。「その他」の自由記述には「体調不良」（5 名）や「寝坊」（5 名）などがあげられている。

#### 【設問4：教職員の学生支援に対する評価】

「教務関係」への支援に対する評価は、「ふつう」以上の評価が90%と過去5年間では2番目に高かった。一方、「あまりやってくれない」、「さっぱりやってくれない」と答えたのは6.0%であり、学年別に見ると2年生が9.6%と高く、3年生5.1%、4年生2.7%と学年が上がるごとに低くなっているため、大学の教務関係に不慣れな低学年への支援が必要なのではないか。

「学生生活」の支援に対する評価は、「ふつう」以上の評価が77.5%と例年同様である。一方、利用したことがない1・2年生が17.6%（204名）と多いため、学年を問わない学生支援策等の検討が必要なのではないか。

「就職関係」の支援に対する評価は、「ふつう」以上の評価が86.2%であった。3・4年生の「ふつう」以上の評価は94.6%と重点的に支援している学年においては良好である。中でも、都市マネジメント学科の4年生は「ふつう」以上の評価が100%で、「まあまあ良くやってくれる」以上が90.0%と高評価を得ることができた。

「ウェルネスセンター（保健室やカウンセリング室など）」の評価は、「ふつう」以上の評価は60.6%と例年同様であった。一方、「あまりやってくれない」、「さっぱりやってくれない」の割合は3.4%と低く利用者の満足度は高いと言えよう。

「eラーニングセンター」については、「ふつう」以上の評価が62.2%となっている。一方で、「利用したことがない」との回答が32.5%（687名）と高いため、eラーニングの活用方法を全学的に検討する必要がある。

工学部とLD学部で「ふつう」以上の評価を比較した場合、「教務関係」では、工学部89.7%に対しLD学部92.1%。「学生生活」では、工学部76.3%に対しLD学部81.0%。「就職関係」では、工学部84.8%に対しLD学部90.1%と工学部に比べLD学部の方が満足度が高い。今後は、工学部学生の満足度の向上が大学全体の満足度向上につながると言えよう。

#### 【設問5：施設設備に対する評価】

「教室環境」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス93.4%、長町キャンパス94.7%であった。「不満（少し・大いに）」の割合は、八木山キャンパス6.4%、長町キャンパス4.9%であった。不満を感じる具体的な理由としては、「空調がよくない」、「教室がせまい」、「黒板・スクリーンが見づらい」などがあげられている。

「研修室やゼミ室」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス56.8%、長町キャンパス78.5%であった。八木山キャンパスにおいては、前年度比9.4%低下した。「不満」（少し・大いに）の割合は前年度同様の2.7%であり、「無回答」の学生が9.7%増えた。長町キャンパスにおいては、「不満」（少し・大いに）の評価が3.2%と過去5年間で最も低くなった。不満を感じる具体的な理由としては、「設備が整っていない」、「せまい」などがあげられている。

「図書館」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス90.9%、長町キャンパス93.1%と評価は高い。「不満（少し・大いに）」の割合は八木山キャンパス8.5%、長

町キャンパス 4.4%である。不満を感じる具体的な理由としては「閉館時間が早い」、「蔵書数が少ない」、「種類が少ない」などがあげられている。

「食堂や売店」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパスで 48.4%、長町キャンパスで 88.4%となっている。特に八木山キャンパスでは「不満（少し／大いに）」の割合が 50.7%と非常に高い。「八木山キャンパスの施設で最も改善してほしい施設」としても、工学部学生の 57.8%が改善を望んでいるため、早急な改善対応が求められる。

「体育館や運動場、広場等の設備」に関する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス 88.4%、長町キャンパス 92.4%と評価は高い。「不満（少し・大いに）」の割合は八木山キャンパス 11.1%、長町キャンパス 6.9%となっている。不満を感じる具体的な理由としては、「整備状況が悪い」、「自由に利用できない」などがあげられている。

バスの便や駐輪場など「交通」に対する評価は、「ふつう」以上の割合が八木山キャンパス 79.8%、長町キャンパス 53.6%となっているが、この項目は、「長町キャンパスの中で最も改善してほしいと思う施設」として、ライフデザイン学部学生の 56.8%が改善を望んでいるため、早急な改善対応が求められる。不満を感じる具体的な理由として、八木山キャンパスでは「バス混雑時の本数を増やしてほしい」、「駐輪場の屋根がない」、「自家用車の利用禁止」などがあげられている。長町キャンパスでは「バスの本数が少ない」、「駐輪場に屋根が欲しい」などがあげられる。とりわけバスの本数の少なさに対する不満が多い。地下鉄東西線の開通により、八木山キャンパスの「通学」に関する不満は解消されることが見込まれるが、長町キャンパスにおいても解消に向けた改善策の検討が必要である。

総じて、八木山キャンパスは「食堂」、長町キャンパスは「通学」に関する不満が多い。また、両キャンパスに共通していることは、「駐輪場の屋根」設置についての要望が多く、過去の調査でも同様の要望が出されていることから、早急な対応が求められる。

#### 【設問 6：大学院への進学とその障害】

最後の設問「大学院への進学とその障害」については、「進学を考えたことがない」という割合が工学部で 41.1%、LD 学部で 50.0%である。一方、進学を考える際、最も障害となったことは「学費・生活費の問題」が工学部で 26.0%、LD 学部で 22.4%であった。自由記述では「基礎学力が足りない」などの意見があった。進学意識を高めるための施策の一層の充実を大学、学部、各学科がそれぞれに検討する必要がある。